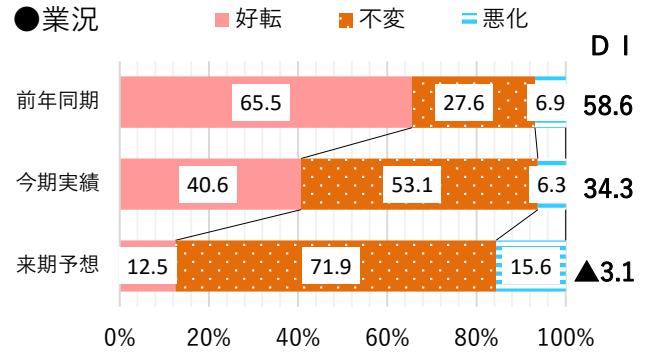


# 観光業

## 業況、売上、採算

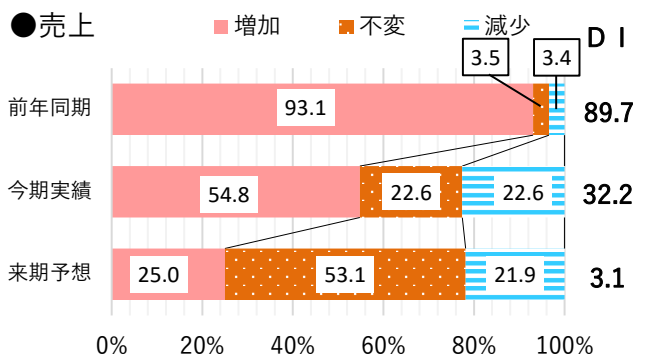
今期（2024.7～9）の業況判断DIは34.3で、前年同期（2023.7～9）と比べ24.3ポイント低下しました。

来期（2024.10～12）は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



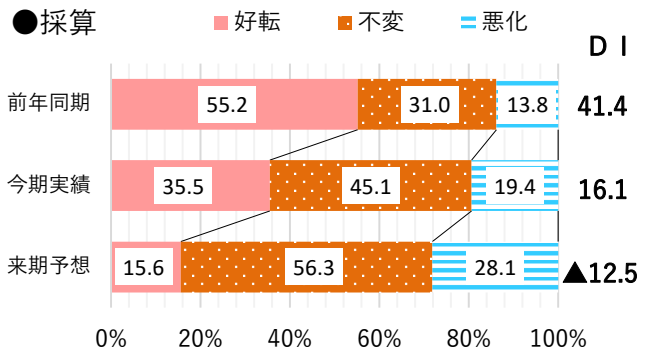
今期の売上DIは32.2で、前年同期と比べ57.5ポイントと大幅に低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

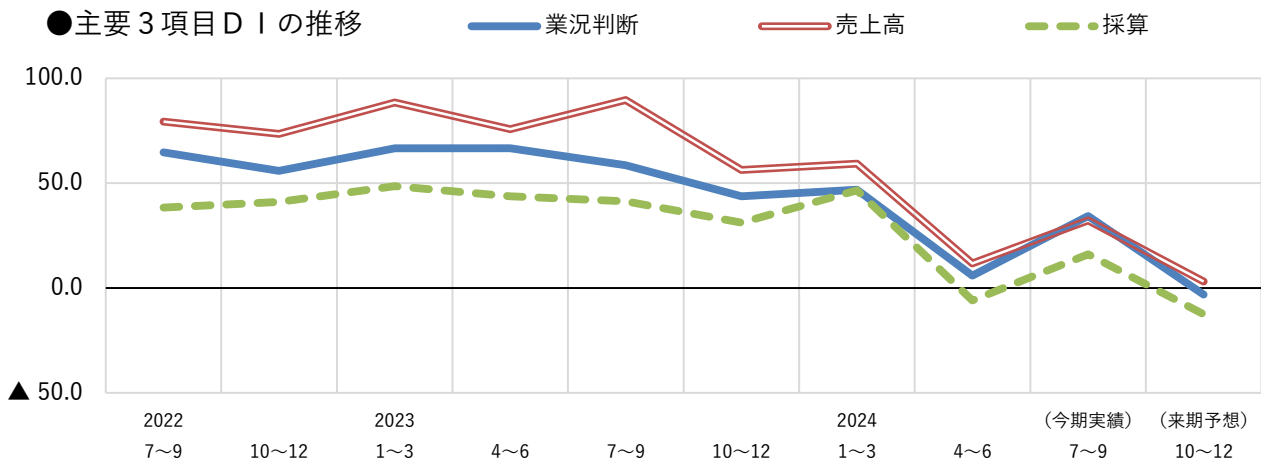


今期の採算DIは16.1で、前年同期と比べ25.3ポイント低下しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



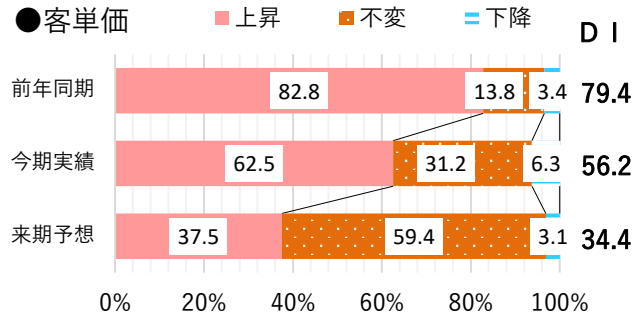
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

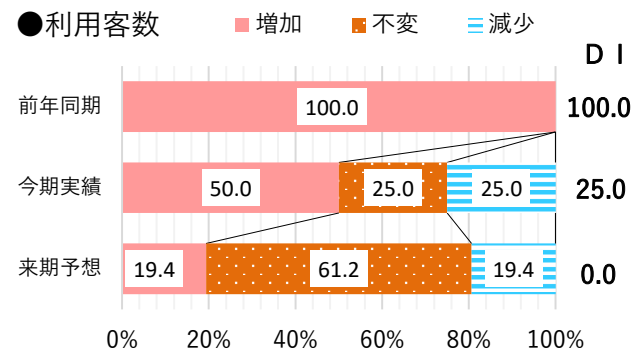
今期の客単価DIは56.2で、前年同期と比べ23.2ポイント低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



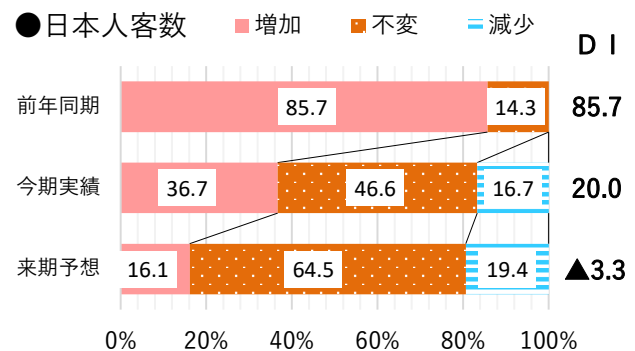
今期の利用客数DIは25.0で、前年同期と比べ75.0ポイントと大幅に低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



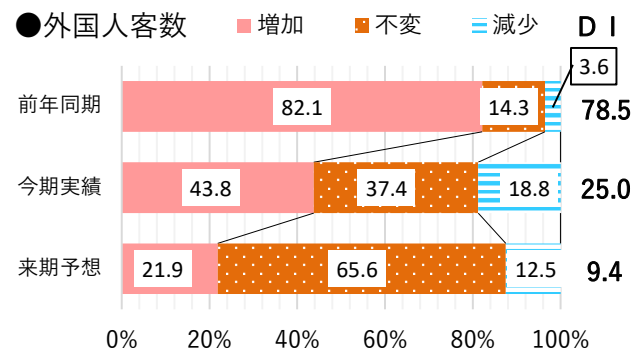
今期の日本人客数DIは20.0で、前年同期と比べ65.7ポイントと大幅に低下しました。

来期は、日本人客数がマイナスに転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは25.0で、前年同期と比べ53.5ポイントと大幅に低下しました。

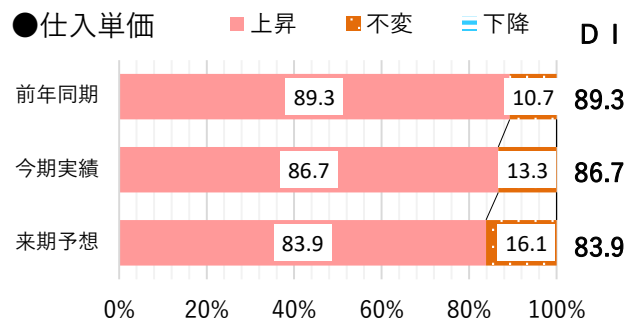
来期は、外国人客数の増加傾向が弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは86.7で、前年同期と比べ2.6ポイント低下しました。

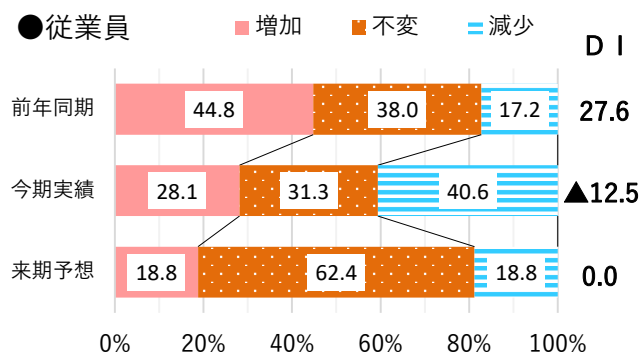
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



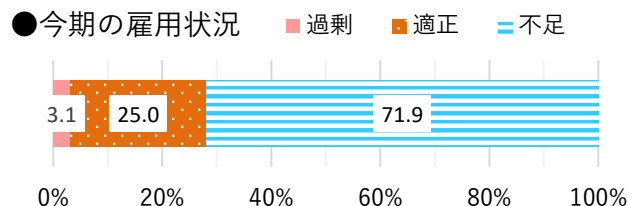
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲12.5で、前年同期と比べ40.1ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は25.0%、不足していると回答した企業の割合は71.9%でした。



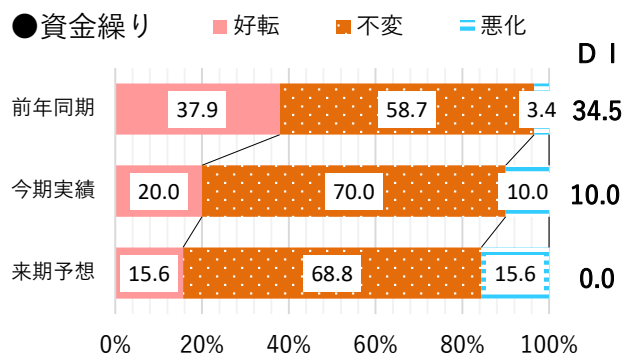
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、37.5%を占めました。回答全体では71.8%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	3
	不足	5
不変だった	過剰	0
	適正	4
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	12

## 資金繰り、設備投資

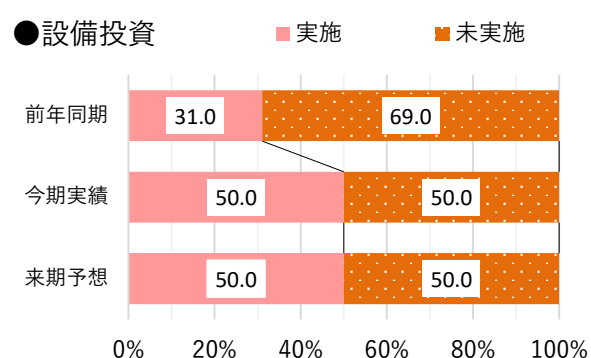
今期の資金繰りDIは10.0で、前年同期と比べ24.5ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べて19.0%上昇しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は50.0%で、横ばいを予想しています。

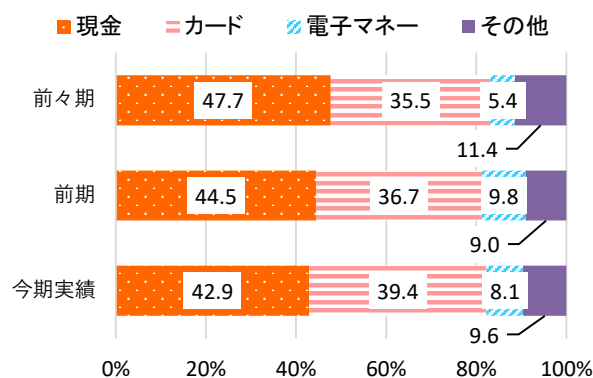


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で42.9%、2位がカードで39.4%、3位が電子マネーで8.1%、4位がその他で9.6%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、交通系ICカード、QUICpay、電子マネー（Edy、Waoon等）、掛売り、クーポン券、金券、銀行振込、ポイント決済、バーコード決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

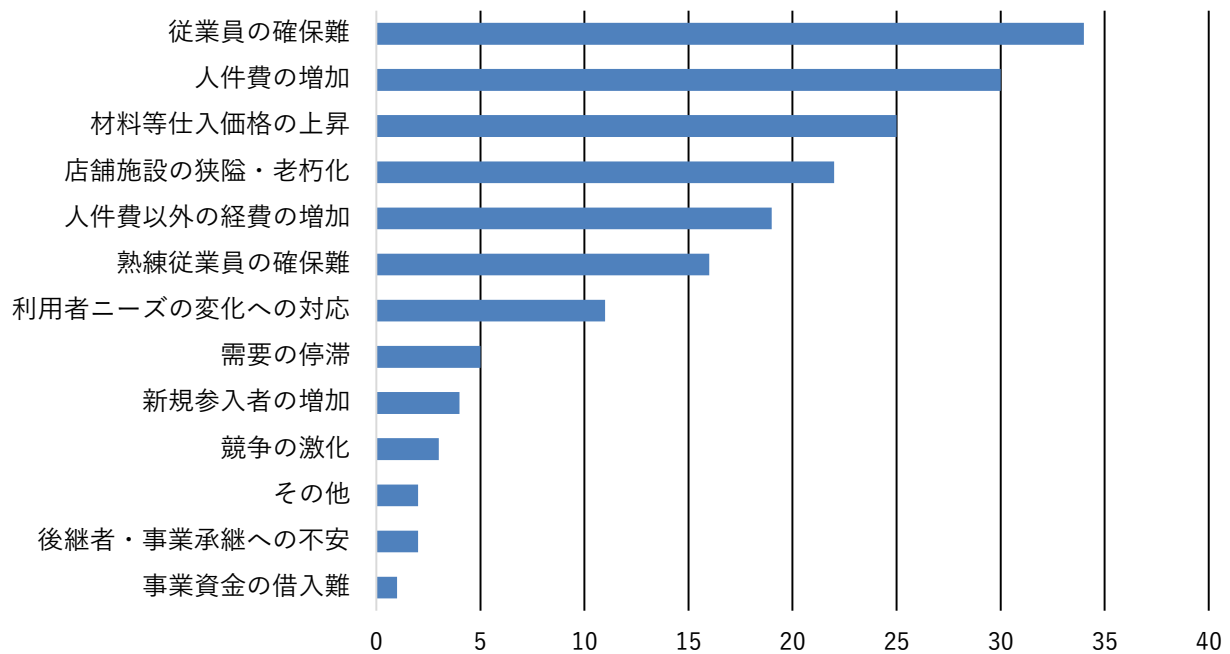


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は77.5%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 昨年同期、前期と比べ業況が少し悪化した。インフレ経済の下、日本人は客数と購入額がともに減少しており、外国人客もやや減少した。確実に勢いが無くなってきている。4月に値上げをしたので、売上は減少していないが、販売数量は減少している。主原料以外の原材料と人件費などの諸経費が継続して上昇しているため、採算は悪化している。人手不足が切迫しているため、人件費を引き上げざるを得なく、事業運営にも大きな支障をきたしている。（土産品）
- 以前のようにインバウンドが戻ってきているが、波が激しく、安定しない。クレジットカードの利用者が増加したことによる手数料の増加も痛手だ。（土産品）
- 売上は増加しているが、仕入価格や人件費の高騰により、採算の好転に結びつかない。（土産品）
- 仕入価格の上昇と人材確保が課題だ。（土産品）
- インバウンドが多く、地元のお客様が来店しづらい状況にある。（飲食店）
- 日本人客数が伸びない。外国人客が中心となっている。（飲食店）
- 仕入単価はまだ値上がりすると思われる。（飲食店）
- 売上が回復した。（飲食店）
- 航空便不足により、外国人観光客が減少している。札幌のホテルが増加したため、小樽は日帰りコースとなり、宿泊客が減少している。人材も札幌に集中しており、集まらない。（ホテル）
- 国内個人旅行者が増加する一方で、国内団体旅行者が減少している。インバウンドは韓国、台湾、シンガポール、タイ等東南アジアも伸びてきている。（ホテル）
- 販売単価が上がっている分、売上も増加した。清掃スタッフが少なく、募集してもなかなかいい人材からの申し込みがない。（ホテル）
- 仕入原価及び経費、販促費用、人件費等の増加によって、売上の割に採算が好転していない。（ホテル）
- 売上が増加し、客単価が上昇した。仕入価格の上昇により、全体としてはやや好転となった。（ホテル）

- アルコールの売れ行きが良い。(ホテル)
- 人材確保が難しい。(コテージ・ペンション)
- 札幌、千歳での売上は好転したが、小樽での売上は減少した。(レンタカー)
- インバウンドの利用が増加した。(レンタカー)
- 会社の周年記念で告知を増やしたことで、インバウンドの増加などにより売上が増加した。(社会教育)
- 一部値上げ効果により増益となるが、コスト増の為業績は変わらない。(娯楽業)
- 乗船客数、売上、インバウンド客数は全て増加し、過去最高となった。(水運業)

## [来期の業況について]

- 引き続き業況の悪化局面での事業運営を迫られる。観光客数の減少で売上が減少する一方で、主原料の値上げ、最低賃金の引き上げが予定されており、採算面でも厳しさが増す。人手不足を解決する有効策が見い出せず、事業運営も更に厳しさを増し、接客などのサービスの質の低下を懸念している。小樽観光の今後の発展にも影響が出ると考えている。(土産品)
- 今期同様、売上の増加と経費の高騰を見込む。(土産品)
- 閑散期に向かうため、厳しくなる。(土産品)
- 値上げにより客単価が上昇するが、仕入単価の上昇傾向も続く。(飲食店)
- 今期と同じ情勢が続けば、より良い状況を目指せると思う。(飲食店)
- インバウンドの利用に助けられると思う。(飲食店)
- 夏休みシーズンが過ぎ、国内個人旅行者の減少が見込まれるが、インバウンドの個人、団体旅行者の利用は期待できる。(ホテル)
- 最低賃金を含む人件費が増加する。客単価、売上は伸びるが、経費高騰の見通しは不透明だ。(ホテル)
- 利用客が増えるため、増収を見込むが、人材の確保が課題となる。(ホテル)
- 仕入価格と人件費が上昇し、業績は悪化すると思われる。(ホテル)
- 各種経費の増加により、採算の伸び悩みが続く。(ホテル)
- 変化する要因は見当たらない。(ホテル)
- 人材確保に苦勞する。冬期のインバウンド増加を見込む。(コテージ・ペンション)
- 今期同様、インバウンドの利用が好調となる兆しがある。(レンタカー)
- 引き続きインバウンドの増加が見込まれるが、施設の経年劣化により修繕費が増大する。(社会教育)
- 冬期のため大きな変動はない。(娯楽業)
- 冬期の閑散期に向かうため、乗船客数と売上は減少が見込まれる。(水運)